# コラムで紹介した、軽井 第46回

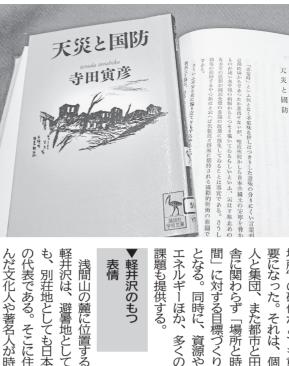
# 般社団法人 洸楓座 安全な『居場所』をつくる 建吉

般社団法人efco. j p 代表理事 佐藤

### ▼居場所の確保

地方にこそ書籍文化 註1]。 に掲げた主題であった 沢の「ブック&カフェ」

は、2年前の夏、 の拠点が欲しい」。これ 本連載 今年11月21日、そのブ 場所』の確保がとても重



課題も提供する。

時間が共有でき、世界を

る。書き手は、 チボールであ

らしを先導する。 場所と

# 軽井沢のもつ

を刻んできた歴史があ 情」がある。 んだ文化人や著名人が時 の代表である。そこに住 も、別荘地としても日本 軽井沢は、避暑地として 夏には、たくさんの観 浅間山の麓に位置する 建物や足跡の

と講談社学術文庫

『寺田寅彦全集』

寺田寅彦全集

文學篇

第

五卷

寺田寅彦全集

文學篇

第 1203

卷

を育んできたのは自然で 災害への警鐘を鳴らす。 穏やかであるが、噴煙や これも、隠れた「表情」 噴石をしばしば繰り返し あった。浅間山は稜線は 軽井沢のこうした表情

### ▼コロナ禍の居場所

ック&カフェで、寺田寅

彦の随筆を題材とした朗

読会&トーク会を開催し 舎に関わらず「場所と時 間」に対する目標づくり 要になった。それは、個 へと集団、 また都市と田 コロナ禍の時代、『居 かび上がってくる。 フであり、生命と重な ばならない。生活はライ タルの時代は、新しい暮 の家や家庭の重要性が浮 せるネスト(巣)として る。安全で安心して暮ら ちの生活も変容しなけれ インターネットとデジ

も知りえない。 場所や人々の姿が必ずし る。世界を共有できる利 提供されるので、現実の 点もあるが、多くはメデ ィア発信者による情報が に身を置くことができ 一つにでき、自分もそこ 居場所は、やはり個人

沢では老弱男女が愉しげ 光客が訪ね、特に旧軽井 に向かい「表情」をつく に、ケータイやデジカメ を持たなければならな の依存体質をつくる。自 の姿勢は、その情報源へ らない。情報からの受身 は?を探さなければな がって、真の居場所と の生活の中にある。した らが情報を発信する気概

#### 書籍文化の

コロナ禍の時代、私た

推敲し記録す

ろう。地方に魅力ある居 関心を促す効果を生むだ とする体制から地方への 2019年11月に東京の ンとした。そして、今回 子の朗読会であり、これ とらえた詩人・茨木のり た。いずれも、社会性を 東京の渋谷区で開催し 読会を、軽井沢のブック 11月、防災についての朗 江戸川区で、今年10月に &カフェで開催した。 に音楽を加えパフォーマ

デザインする力 効果的なメディ アである。ここ 読み手のキャッ である。本や書 で共通するのは 籍は、書き手と は、この場合に 文芸やアート

山川建夫氏の朗読(軽井沢書店)

それを享受する。本の読 読会というイベントもあ み方も多彩であるが、個 る。読み手は、 に聞き入る場合もある。 る。またラジオでの朗読 ープでの朗読もあり、朗 人としての精読からグル

インタネットによるもの 筆者は朗読会を、昨年 りは、本コラムの第27回 にも既述している。また 軸を提案したが、導入に は、町や地元に「フェー り、その対策に力を入れ は、昨年の台風19号で洪 は敷居が高い。このくだ ようとしている。筆者 ズ・フリー」という新機 水・浸水や崖崩れがあ

▼朗読会&トーク会

流れる。居場所である。 れており、本を読み、イ と会話できる珈琲の香り ンターネットをし、友達 カフェは、店内に併設さ 軽井沢書店のブック& 軽井沢はじめ長野県で

> エントな社会》として述 《「9・9停電」とレジリ

べている。

はいるが、災害は起こる。 号や19号、さらに近年の されていない。 た点について語った。 みじくも、昨年の台風15 熱く語った。そして、い と自身の生き方について 災害が、寺田との符合し フジTVを退社した背景 朗読のあと山川氏は、 このイベントは、朗読

た。朗読者には自身も台 2】の朗読会を企画し 風15号で被災した山川建 夫氏(元・フジTVアナ

も共感をつくり出し、

文

化的な居場所をつくり出

した。

災と国防』【註3】は、 ウンサー)に依頼した。 講談社学術文庫の『天

▼居場所への期待

16ページの短編である。 地理的、 理展開を述べて 的、国民的、そ 変異について、 う言葉から本文 「非常時」とい 国で特殊な自然 は始まる。我が して科学的な論 昭和9年(1 歴史 求められる。 来に向かう持続可能性が 全安心、そして健康で未 働の場も同様である。 伴うものではあってはな

の場に限らず、仕事や労 家庭のほか、余暇や休息 らない。居場所は、家や

安

の確保は重要で、苦痛を めているが、、居場所は

に、新しい生活様式を求

コロナ禍はあらゆる人

進歩や革新的な進歩はな 地震津波台風を例に挙げ ているが、対応や対策に

ムでも、2019年9月

に第141号において

ても朽ちない。

示される。

なお詳しくは、

本コラ

それから88年を かれているが、

向けることで、

防災と資

強い。田舎や地方に目を 水、食事やトイレ問題が ては、被災時に停電や断

防災に特化した事とし

934年) に書

経た現在におい

源やエネルギーにも新し

い視点や方向転換が、

例

るべきではないかと思う る。「昆虫や鳥類でない 次第である。」が、活か 理的な様式があってしか 20世紀の科学的文明国民 愛国心の発露にはもう少 しちがった、もう少し合 寺田は末尾に述べてい

<u>2</u>0

もある。

http://www.kofuza.jp/ 聞第110号11面 pdf 欲しい」 にこそ書籍文化の拠点が 18年8月6日)「地方 【註1】新エネルギー新

## images/nen\_2018\_39.

9日発行、 和25年9月5日発行)、 国防』、(2011年6月 寅彦全集』、(第五巻、 ページ176~188) 【註3】講談社、『天災と 【註2】岩波書店、『寺田 ページ9~ 昭

筆『天災と国防』【註

力量が共感し、聞き手と

に掲げた素材と朗読者の

そこで、寺田寅彦の随

である。

11